

ポジティブ生徒指導入門

望ましい行動に目を向けよう

担当者	宇田 光 (南山大学教職センター 教授)
概要	<p>日本の学校で先生方は、切磋琢磨する学級集団をつくろうと努めてきました。そして、好ましい学級雰囲気は、高い学力にも結びついています。こうした学校の強みの反面、不登校やいじめなどの問題もなかなか解消できません。外国の学校での実践から学ぶことは、ないでしょうか。</p> <p>米国の学校では、生徒指導の枠組みとして、カウンセリングやTET (教師学)、ゼロトレランスなどが用いられてきました。でも、その限界や問題点が指摘される中、最近になってPBISという問題行動の予防を重視した試みが行われています。ポジティブな行動支援、あるいはPBSとも呼ばれます。それは急速に大きな流れを形成し、PBIS実践校は2万校におよんでいます。</p> <p>PBISにおいては、生徒が取るべき望ましい行動を、3つの段階でポジティブに指導します。実際PBISを導入することで、行動面、学力面ともに、好ましい成果が報告されています。</p> <p>日本の先生方は非常にお忙しいので、この講座は参加しやすいように半日で設定しました。ポジティブ生徒指導の概略をご紹介します、またPBIS第一段階での取り組みを中心に体験して頂きます。学校の先生方を主な受講者として想定していますが、教育に関心のある方であればどなたでも歓迎いたします。</p>
日程	2021年8月7日(土)9:00~12:00
定員	30名
会場	オンライン
受講料	3,800円 (税込)
メルマガ講座報告	<p style="text-align: right;">担当講師 宇田 光 記</p> <p>気軽に参加して頂けるようにと、思い切って半日、3時間のオンライン講座を組んでみました。時間が限られているので非常に簡潔な内容になった一方、演習が全体に忙しかったという印象があったかもしれません。</p> <p>講座名から、学校の先生方が圧倒的に多いのかとも予想していました。でも、一般企業にお勤めの方など、教員以外の方も少なからず参加して下さいました。そして、ご自分の専門領域でのご経験などをお話になって、とても刺激になりました。実は事前には、「小・中学校教員」「医療関係者」・・・などとグループを分けることも考えたのですが、「混成」は正解だったのではないのでしょうか。校内研修とはまた違った雰囲気だったと思います。</p> <p>「PBISのような考え方を学校に導入していくには、どういう作戦をとったら良いか」というご質問もありました。ポジティブ生徒指導を学校全体に入れていくことは簡単ではないかもしれません。ただ、学級単位など可能な範囲で、まずはお試し頂き、広げていけばよいと思います。</p> <p>懲罰に頼るネガティブな生徒指導は今後も、一定の役割を果たすでしょう。しかし、ポジティブかつ予防的に指導していく方法が、世界の潮流となってきているのは確かです。</p> <p>オンラインの講座でしたが、さほど大きな通信トラブルなどもなく無事に終わりました。</p> <p>みなさま、講座内での演習、討論などにも積極的にご参加頂きありがとうございました。</p>